

# きたやつ 令和5年度 史跡北谷遺跡発掘調査報告会

令和5年11月19日(日)  
令和5年度 史跡北谷遺跡発掘調査報告会  
@高崎市市民活動センター・ソシアス

## (1) はじめに

北谷遺跡は、群馬県高崎市冷水町・引間町に所在する古墳時代中頃の豪族居館です。平成12年の発見以来、数度の範囲確認調査を経て、平成17年に国指定史跡となりました。

このたび、高崎市教育委員会では、史跡の内容確認のための発掘調査を実施いたしました。

## (2) 令和5年度調査の概要

発掘調査に先駆けて、早稲田大学の協力のもと、居館内部の主要部分に地中レーダー探査を実施し、対象地内において種々の反応を検出した。こうした成果との整合性を確認することを目的に、大型竪穴建物跡と居館西辺を中心に調査区を設定した。

### ・大型竪穴建物跡 (SI01)

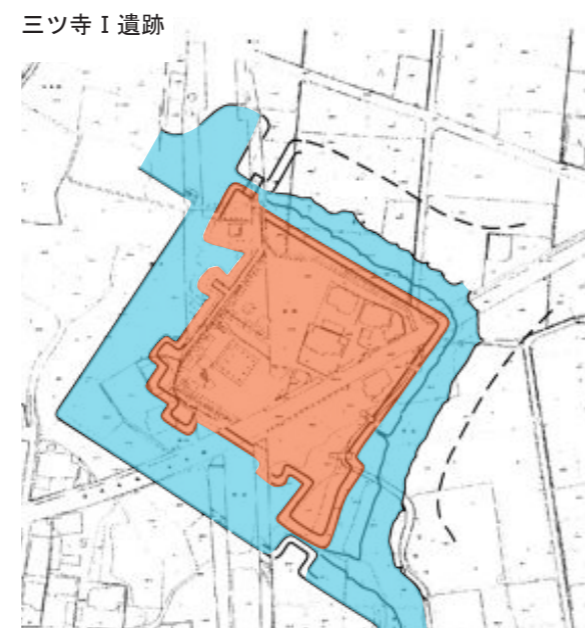
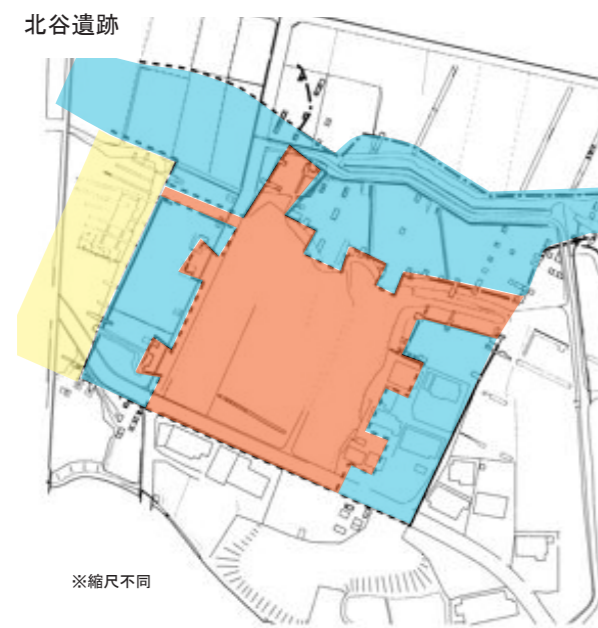
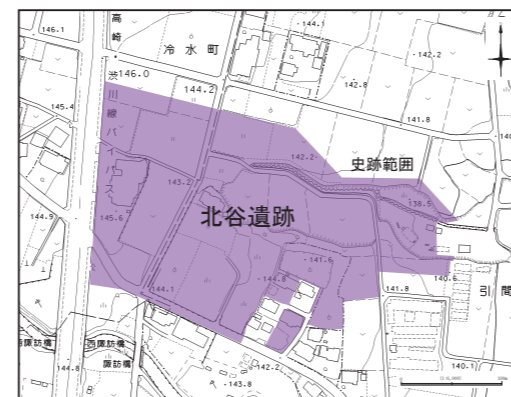
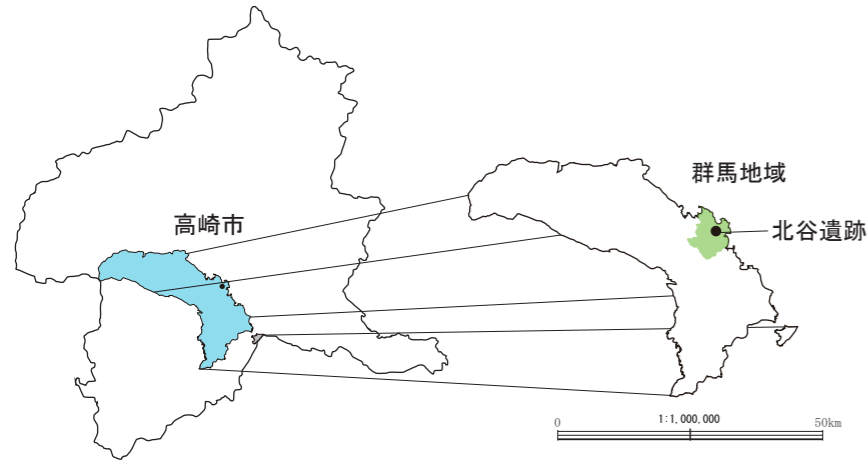
規模 (外法) 東西13.0m×南北13.2m (内法) 東西11.2m×南北11.7m

主軸の傾き N-27° -E 燃烧施設 西壁にカマドか 床面 硬化面あり

特徴 床面直上にHr-FA (6世紀初頭の噴火とされる榛名山の火山灰層) が堆積する。

### ・柵列 (SA01)

規模が幅80cm×深さ120cmの溝状の掘り込みに、一定の間隔をあけてピット跡(小穴)が見られる。ピットは柱状の構造物の腐食した痕跡と考えられることから、本遺構は布掘りの掘り方を伴う柵列状の遺構と推測される。また、柱間に板等が設置されていれば、塀状の施設を想定することができる。



北谷遺跡と三ツ寺 I 遺跡の平面図 (群馬町教委 2005『北谷遺跡』より転載、一部改変)



北谷遺跡遠景 榛名山を望む 南東→



居館内部盛土層断面 (左:調査区西端 右:同東端)



1号竪穴建物跡 榛名山系火山灰堆積状況 北東→



1号柵列 断面状況 南西→



北谷遺跡 居館内部全域 南西→

出典: 若狭徹 2004『古墳時代の地域社会復元 三ツ寺 I 遺跡』新泉社